

株式会社 都市環境 環境経営レポート

対象期間（2022年6月～2023年5月）編



2023年 9月1日発行（2022年度版）

もくじ

1	組織の概要	1
2	認証・登録対象範囲	1
3	情報開示項目	1～3
4	環境経営方針	4
5	環境経営目標とその実績及び評価	5～10
6	3箇年度(2020～2022年度)の環境経営目標の実績	11～14
7	環境経営計画及びその取組結果とその評価	15～17
8	環境関連法規等の遵守状況の確認 及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	18～19
9	代表者による全体評価と見直しの結果	20
10	次年度の環境経営目標	21
11	次年度の環境経営計画	22～24

1. 組織の概要

(1) 事業者名及び代表者

株式会社都市環境 代表取締役 齋藤 高照

(2) 所在地

本社・資材置場 〒957-0062 新潟県 新発田市 富塚町 2丁目1002番地

(3) 環境管理責任者及び担当者連絡先 : 電話 0254-22-6337 FAX 0254-23-6308

環境管理責任者 常務取締役 齋藤 剛寛 E-mail Saito-t@toshikankyo.com

事務局担当者 専務取締役 小林 勝彦 E-mail kobayashi@toshikankyo.com

(4) 事業内容

ア 浄化槽清掃業、イ 浄化槽保守点検業、ウ 産業廃棄物収集運搬業、エ 一般廃棄物収集運搬業、オ 一般建設業(土木、とび・土工、管、しゅんせつ、機械器具設置、解体、電気工事業)

カ 下水道処理施設管理業、キ 工業薬品の販売、ク 建築物貯水槽清掃業、

ケ 建築物排水管用清掃業、コ 道路側溝等清掃業務、サ 無人航空機による農薬散布業務

※ 建設業の事業活動において、新たに【超高压水による研り業務】を開始しました。

2. 認証・登録対象範囲

株式会社都市環境の全組織、全活動

3. 情報開示項目

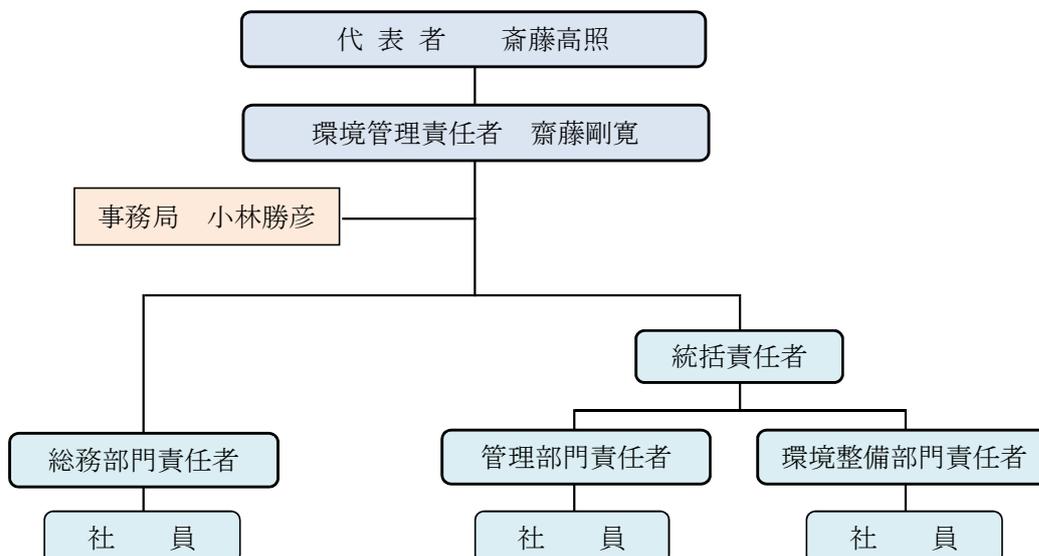
(1) 法人設立年月日 : 1983年9月28日(創業 1958年)

(2) 資本金 : 1,500 万円

(3) 事業規模

活動規模	単位	2020年度	2021年度	2022年度
従業員数	人	62	64	67
売上高	百万円	664	697	712
本社床面積	m ²	283.5	283.5	283.5

(4) EA21 実施体制図



(5) 許可の内容

① 産業廃棄物収集運搬業

【新潟県】

許可番号	01501034436		
許可年月日～有効期限	2022年10月17日～2028年9月30日（優良産業廃棄物処理業者）		
事業計画の概要	産業廃棄物の収集運搬		
事業の範囲	収集・運搬（積替え・保管を除く。） 廃プラスチック類、木くず、ガラスくず・コンク リートくず及び 陶磁器くず、がれき類（以上、石綿含有産業廃棄物を除く。）、 汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、動植物性残さ、ゴムくず、 金属くず（以上、水銀使用製品産業廃棄物を含み、水銀含有 ばいじん等を除く。）		
施設等の状況	強力吸引車 12t 1台	コンテナ車 4t 1台	
	強力吸引車 6t 1台	バキューム車 3t 2台	
	強力吸引車 5t 1台	塵芥車 2t 1台	
	強力吸引車 4t 1台	トラッククレーン車 2t 1台	
	トラック車 8t 1台	ダンプトラック車 2t 1台	
	トラック車 5t 1台	普通貨物車 1t 2台	
	トラック車 3t 1台		
運搬実績（年度は6月～翌年5月）	2022年度	2,589.3 t	

【山形県】

許可番号	0609034436		
許可年月日～有効期限	2022年5月31日～2028年5月30日（優良産業廃棄物処理業者）		
事業計画の概要	産業廃棄物の収集運搬		
事業の範囲	収集・運搬（積替え・保管なし。） 汚泥（特別管理産業廃棄物であるものを除く。）		
施設等の状況	強力吸引車 12t 1台	強力吸引車 4t 1台	
	強力吸引車 6t 1台	トラッククレーン車 2t 1台	
	強力吸引車 5t 1台		
運搬実績（年度は6月～翌年5月）	2022年度	0.0 t	

② 一般廃棄物処理業【新発田市】

許可番号	環 第 800 号 - 2		
許可年月日～有効期限	2023年8月1日～2025年7月31日		
事業計画の概要	一般廃棄物の収集運搬		
取扱廃棄物の種類	事業活動により生じる一般廃棄物及び一般家庭から一時的 に大量に出るごみ 収集・運搬（積替え・保管を含む。）		
施設等の状況	積替え・保管面積 37.6 m ²	保管上限量 72.4 m ³	
	コンテナ車 4t 1台	トラッククレーン車 2t 1台	
	ダンプトラック車 2t 1台	塵芥車 2t 1台	
運搬実績（年度は6月～翌年5月）	2022年度	13.29 t	

③ 一般廃棄物処理業【新発田市】

許可番号	環 第 2093 号 - 2		
許可年月日～有効期限	2022年4月1日～2024年3月31日		
取扱廃棄物の種類	浄化槽汚泥 収集・運搬		
施設等の状況	バキューム車 3t 6台		
運搬実績（年度は6月～翌年5月）	2022年度	7,980.1 m ³	

④ 一般建設業【新潟県】

許可番号	第 2 1 6 3 1 号		
許可年月日～有効期限	2022年1月17日～2026年1月16日		
建設業の種類	土木、とび・土工、管、しゅんせつ、機械器具設置、電気、解体工事業		
工事実績（年度は6月～翌年5月）	2022 年度	79 件	

注) 1. 年度とは当社の会計年度(6月～翌年5月)である。

株式会社都市環境 環境経営方針

<環境理念>

株式会社都市環境は、飯豊連峰を源とする清流加治川の恩恵を受けた緑豊かなこの地で、『人とより良い環境の共生を求めて』をモットーに、浄化槽保守点検業務、公共下水道関連業務、廃棄物収集運搬業務などの環境関連業務を営んでおります。企業としての活動が二酸化炭素の排出などにより地域及び地球環境に一定の影響を与えていること及び当社の事業活動を踏まえ、温暖化の防止や水環境の保全に積極的に取り組み、持続可能な循環型社会を目指して以下の項目を継続的に取り組んでいくことを誓約します。

<行動指針>

1. 次の事項について環境経営目標・環境経営計画を定め、活動を行うとともに環境経営の継続的な改善に努めます。
 - ① 二酸化炭素排出量の削減
電力の消費や業務車両の燃料消費などに伴う二酸化炭素排出量の削減に努めます。
 - ② 廃棄物排出量の削減
廃棄物排出量の抑制に努めます。
 - ③ 総排水量の削減
水使用量の節約に努めます。
 - ④ 化学物質の適正使用及び管理
化学物質の適正使用及び管理に努めます。
 - ⑤ 業務を通じた環境活動の推進
受託廃棄物のリサイクル率の向上や水質浄化業務を推進します。
2. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
3. 本環境経営方針は、全ての従業員に周知します。

制定日：2014年 6月 1日

改定日：2019年 8月 5日

代表取締役 **齋藤高照**

5. 環境経営目標とその実績及び評価

(1) 環境経営目標

電力に係る二酸化炭素排出係数は東北電力の2018年度調整後排出係数0.528kg-CO₂/kwhを使用。

項 目	単 位	基準値 (2017~2019年度 実績値平均)	目 標 値 (△ 向上・▽ 削減)				
			2020年度	2021年度	2022年度		
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減	kwh	44,397	44,264	44,131	43,997	
		削減率		▽ 0.3%	▽ 0.6%	▽ 0.9%	
	ガソリン車	km/ℓ	13.15	13.19	13.23	13.27	
		向上率		△ 0.3%	△ 0.6%	△ 0.9%	
	燃費向上 軽油車	全 体	km/ℓ	(4.04)	(4.05)	(4.06)	(4.07)
			向上率				
	バキューム車	km/ℓ	5.62	5.64	5.65	5.67	
		向上率		△ 0.3%	△ 0.6%	△ 0.9%	
	強力吸引車	km/ℓ	1.92	1.93	1.93	1.94	
		向上率		△ 0.3%	△ 0.6%	△ 0.9%	
	高压洗浄車	km/ℓ	3.55	3.56	3.57	3.58	
		向上率		△ 0.3%	△ 0.6%	△ 0.9%	
	他 作業車	km/ℓ	5.98	6.00	6.02	6.03	
		向上率		△ 0.3%	△ 0.6%	△ 0.9%	
二酸化炭素総排出量		kg-CO ₂	306,285	-	-	-	
水道使用量の削減	全 体	m ³	(601)	(599)	(598)	(596)	
		削減率					
	事 務 所	m ³	241	240	240	239	
		削減率		▽ 0.3%	▽ 0.6%	▽ 0.9%	
	作 業 用	m ³	360	359	358	357	
		削減率		▽ 0.3%	▽ 0.6%	▽ 0.9%	
受託産業廃棄物(有機汚泥)の再資源化の促進		再資源化率 %	51.8	52.8	53.3	53.8	
自社排出産業廃棄物の再資源化の促進		再資源化率 %	52.8	53.8	54.3	54.8	
可燃一般廃棄物の排出量の削減		kg 削減率	1,619	1,614	1,609	1,604	
資格取得の推進		取得者数(人)	-	3	3	3	

- 注) 1. 化学物質は自らの判断で削減できないため、目標設定はせず、適正使用及び管理に努める。
 2. 年度とは当社の会計年度(6月～翌年5月)である。
 3. 二酸化炭素総排出量は灯油・LPGを含む。
 4. 建設廃棄物とその他の産業廃棄物を区分して管理することは困難なため、自社排出産業廃棄物として再資源化に取り組む。
 5. 建設現場については目標設定せず、環境に配慮した工事の施工に努める。
 6. グリーン購入については目標設定せず、今後も継続して購入に務める。
 7. 基準実績値(過去3箇年平均)とは、2017年度～2019年度(6月～翌年5月)である。

(2) 環境経営目標と実績 (対象期間2022年6月～2023年5月)

電力に係る二酸化炭素排出係数は東北電力の2018年度調整後排出係数0.528kg-CO₂/kwhを使用。

項目		単位	基準値 (2017～2019年度 実績値平均)	目標値：△・▽: 対基準実績値の向上・削減 実績値：△・▽: 向上・削減 ▲・▼: 増加・低下 実績評価：○ 目標達成 × 目標未達成			
				目標値	実績値	実績評価	
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減	kwh		43,997	48,012	×	
		削減率	44,397	▽ 0.9%	▲ 8.1%		
	ガソリン車	km/ℓ		13.15	13.27	×	
		向上率		△ 0.9%	▼ 0.5%		
		走行距離 km	456,509	-	417,188		-
		燃料使用量 ℓ	34,724	-	31,892		-
	全 体	km/ℓ		(4.04)	(4.07)	-	
		向上率			▼ 1.0%		
		走行距離 km	311,512	-	308,735		-
		燃料使用量 ℓ	77,029	-	77,092		-
	バキューム車	km/ℓ		5.62	5.67	○	
		向上率		△ 0.9%	△ 2.7%		
		走行距離 km	122,322	-	118,232		-
	強力吸引車	km/ℓ		1.92	1.94	○	
		向上率		△ 0.9%	△ 12.0%		
		走行距離 km	50,964	-	67,098		-
	燃料使用量 ℓ		26,528	-	31,260	-	
		km/ℓ		3.55	3.58	×	
		向上率		△ 0.9%	▼ 17.2%		
	走行距離 km	49,171	-	30,748	-		
	燃料使用量 ℓ		13,842	-	10,471	-	
		km/ℓ		5.98	6.03	○	
		向上率		△ 0.9%	△ 4.2%		
	走行距離 km	89,055	-	92,657	-		
	燃料使用量 ℓ		14,887	-	14,873	-	
		二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	306,285	-	301,282	-
		水道使用量の削減	全 体	m ³		(596)	(560.5)
削減率	(601)				▽ 6.7%		
事 務 所	m ³			241	239	×	
	削減率		241	▽ 0.9%	▲ 7.2%		
作 業 用	m ³		360	357	○		
	削減率	360	▽ 0.9%	▽ 16.1%			
受託産業廃棄物(有機汚泥)の再資源化の促進	再資源化率		51.8	53.8	○		
	%			△ 2.0%		△ 9.4%	
自社排出産業廃棄物の再資源化の促進	再資源化率		52.8	54.8	○		
	%			△ 2.0%		△ 8.4%	
可燃一般廃棄物の排出量の削減	kg		1,619	1,604	○		
	削減率			▽ 0.9%		▽ 8.4%	
資格取得の推進	取得者数(人)		-	3	5	○	

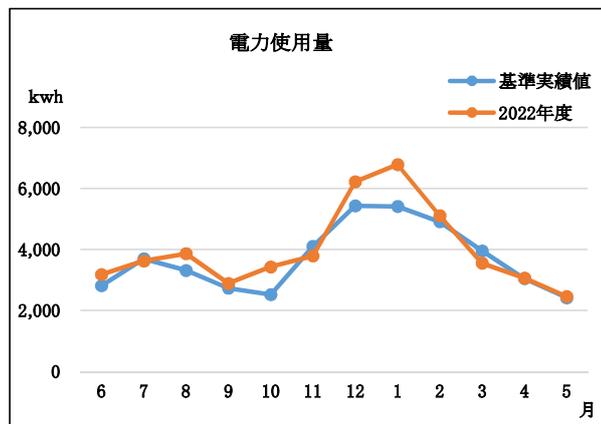
(4) 環境経営目標と実績の評価

対象期間(2022年6月から2023年5月)の環境経営目標の実績は、以下のとおりです。
なお、以降記述する基準実績値とは、2017年度から2019年度の「3箇年度の平均実績値」を示す。

1) 電力使用量の削減

環境経営目標は、基準実績値を基に44,397kwhの0.9%削減で43,997kwhと設定をした。実績では48,012kwhで8.1%の増加(対基準年実績比以下同様)となり、未達成となった。

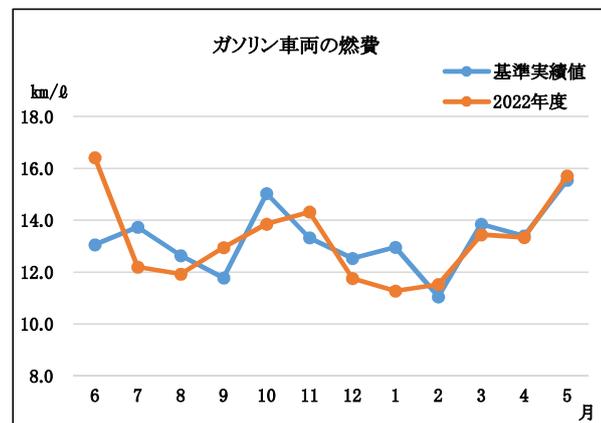
右のグラフからは、冬期間(12月～2月)の使用量が影響しており、これは降雪による消雪を目的とした地下水揚水ポンプ稼働が一番の大きな要因と推察できるが、使用量の削減には年間を通じた節電に対する一層の心掛けが必要と思われる。



2) ガソリン車両の燃費向上

環境経営目標は、基準実績値を基に13.15 km/ℓの0.9%向上で13.27 km/ℓ以上と設定し、実績は0.5%低下の13.08 km/ℓと目標を達成することができなかった。

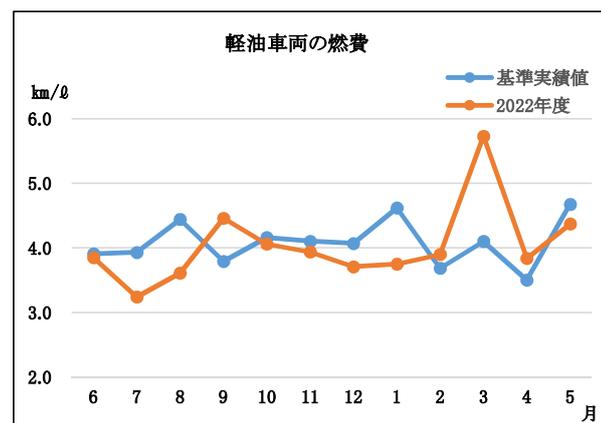
しかし、走行距離と燃料使用量を基準実績値と比較すると走行距離で39,321 km(8.6%)の減少、燃料使用量では2,832 ℓ(8.2%)の減少となっていることから、二酸化炭素排出量については、削減となった。



3) 軽油車両の燃費向上

軽油車両全体についての燃費向上は、環境経営目標に設定していないが、実績としては、4.00 km/ℓとなっている。

詳細については、後記に各車種毎で記しますが、他の軽油車両で燃費が向上しているなか、高圧洗浄車の燃費向上の未達成が、大きく影響した結果となりました。

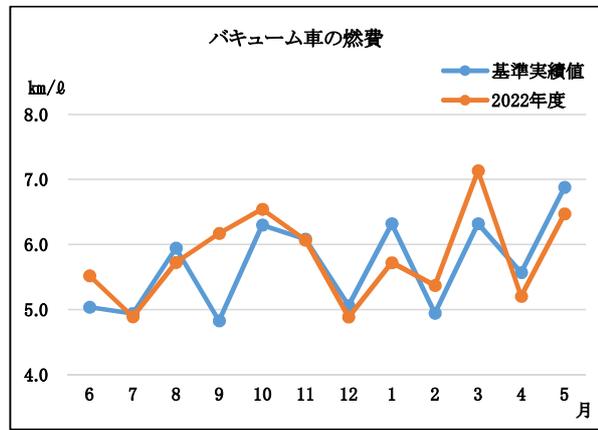


環境経営目標では、4種類の各車種毎に目標を設定し其々の結果については、次頁のとおりです。

3) -1 バキューム車の燃費向上

環境経営目標は、基準実績値5.62km/ℓの0.9%向上で5.67km/ℓ以上と設定し、実績は2.7%向上の5.77km/ℓと目標を達成した。

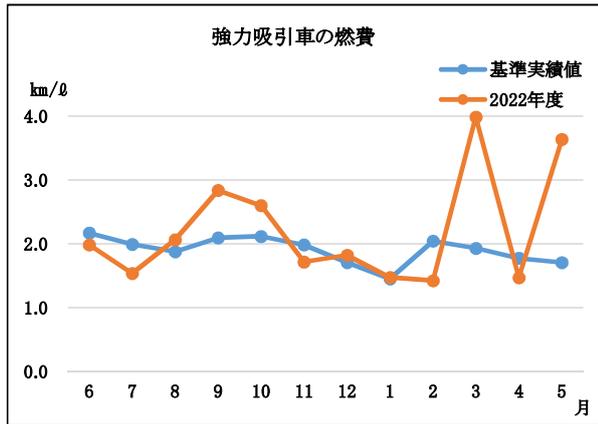
走行距離と燃料使用量を基準実績値と比較すると、走行距離は4,090km(3.3%)、燃料使用量では1,284ℓ(5.9%)の共に減少となっている。



3) -2 強力吸引車の燃費向上

環境経営目標は、基準実績値1.92km/ℓの0.9%向上で1.94km/ℓ以上と設定し、実績は12.0%向上の2.15km/ℓと目標を達成した。

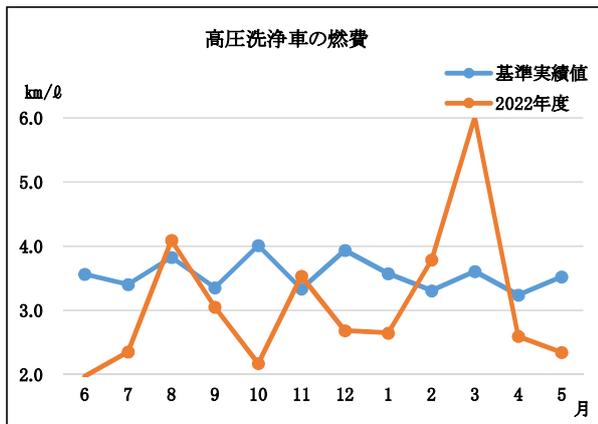
走行距離と燃料使用量を基準実績値と比較すると、走行距離で16,134km(31.7%)、燃料使用量では4,732ℓ(17.8%)の共に増加となっている。



3) -3 高圧洗浄車の燃費向上

環境経営目標は、基準実績値3.55km/ℓの0.9%向上で3.58km/ℓ以上と設定し、実績は17.2%低下の2.94km/ℓと目標を達成できなかった。

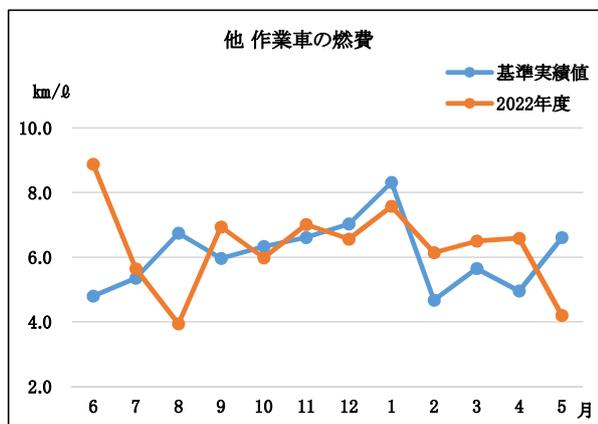
走行距離と燃料使用量を基準実績値と比較すると、走行距離で18,423km(37.5%)、燃料使用量では3,371ℓ(24.4%)の共に減少となっている。



3) -4 他 作業車の燃費向上

環境経営目標は、基準実績値5.98km/ℓの0.9%向上で6.03km/ℓ以上と設定し、実績は4.2%向上の6.23km/ℓと目標を達成した。

また、走行距離と燃料使用量を基準実績値と比較すると、走行距離で3,602km(4.0%)の増加、燃料使用量では14,873ℓとほぼ同数だった。



前頁の3) - 1 から3) - 3 の車両については、作業時もエンジンを動力源とするために作業条件に大きく影響を受ける。その点を考慮し、今後の活動に如何に取組むべきか、検討の必要があると思われる。

4) 二酸化炭素総排出量

(単位: kg)

環境経営目標に設定はしていないが、右表に項目毎の実績を示す。

電力・軽油を除く、ガソリン・灯油・LPGは減少となり、全体的には1.6%減少の301,281 kg-CO₂であった。

総排出量の90%超を占める作業用車両の燃料である「ガソリン」は減少、「軽油」では微増であったこと、また暖房用の「灯油」使用量の減少が、結果的には総排出量の削減に繋がった。

二酸化炭素排出由来項目	基準実績値	2022年度	全体比	(▲増 ▼減)
電力	23,442	25,350	8.4 %	▲ 8.1 %
ガソリン	80,560	73,989	24.6 %	▼ 8.2 %
軽油	198,734	198,896	66.0 %	▲ 0.1 %
灯油	3,122	2,642	0.9 %	▼ 15.4 %
LPG	429	404	0.1 %	▼ 5.6 %
総排出量	306,285	301,282		▼ 1.6 %

5) 水道使用量の削減

環境経営目標は、基準実績値を基に事務所は241 m³の0.9%削減で239 m³、作業用を360 m³の0.9%削減で357 m³と設定した。

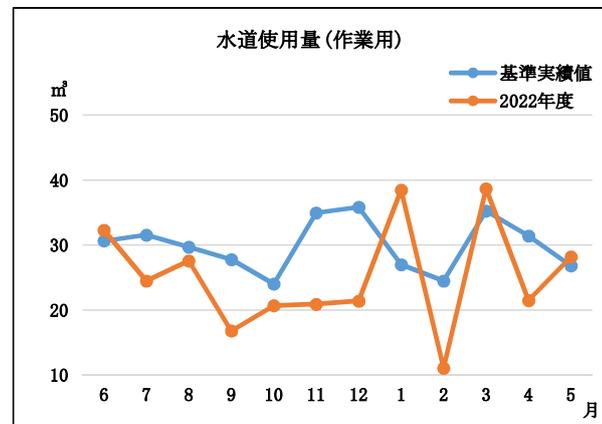
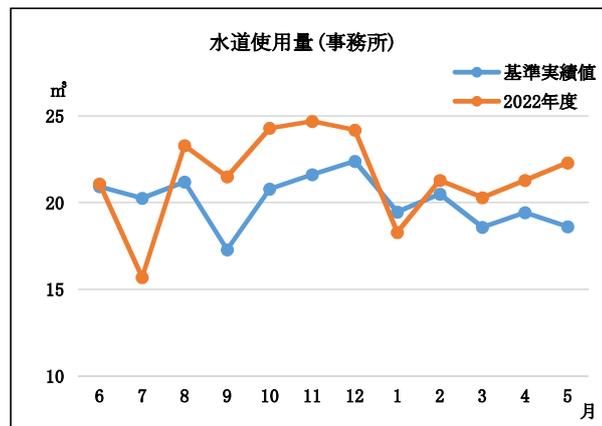
実績は事務所で7.2%増加の258 m³で目標を達成できなかった。

作業用では16.1%削減の302 m³と目標を達成した。

事務所で削減については、厳しい状況と思われるので、今後の経過を注視します。

作業用では、地下水揚水ポンプを活用した水道使用量の削減に継続的に取り組んでおり、その成果が如実に表れている。

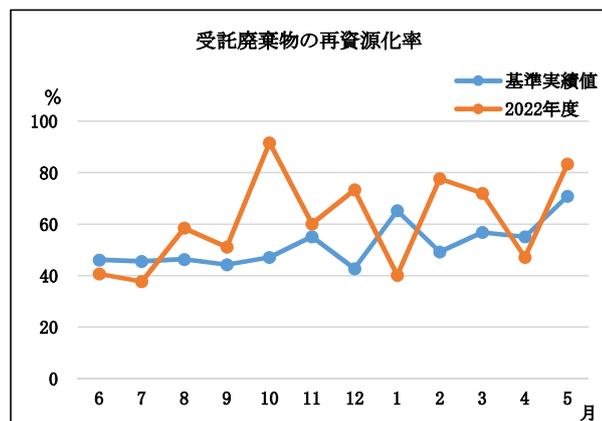
全体では、基準実績値と比較して6.7%削減の560.5 m³となっている。



6) 受託産業廃棄物(有機汚泥)の再資源化の促進

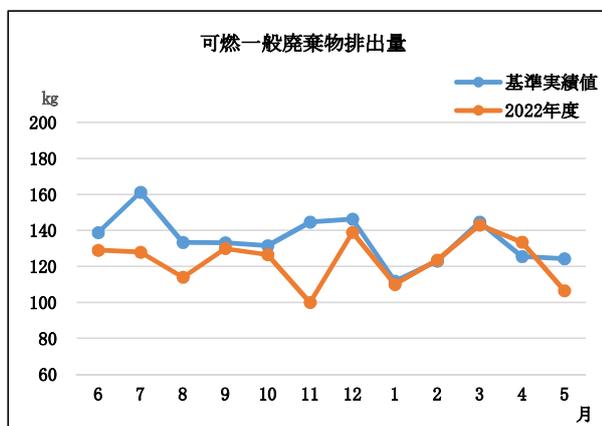
2020度より「有機汚泥に特化」した目標を設定し、収集運搬を受託した産業廃棄物の再資源化を推進した。

受託産業廃棄物(有機汚泥)の再資源化の環境経営目標は、基準実績値の再資源化率51.8%に対し、2.0%向上の53.8%の再資源化を図ることを目標と設定し、実績では9.4%向上の61.2%で目標を達成した。



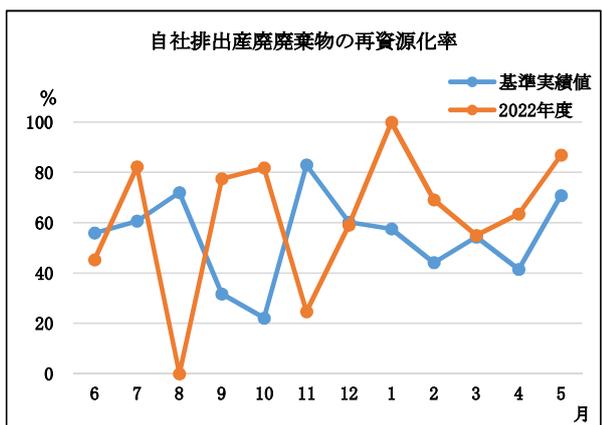
7) 可燃一般廃棄物の排出量の削減

可燃一般廃棄物の排出量に関する環境経営目標は、基準実績値の1,619kgの0.9%削減の1,604kg以下と設定し、実績は8.4%削減の1,483kgで目標を達成した。分別等、日々の取り組みの成果である。



8) 自社排出産業廃棄物の再資源化の促進

自社排出産業廃棄物の再資源化の環境経営目標は、基準実績値の再資源化率52.8%に対し、2.0%向上の54.8%の再資源化を図ることを目標と設定し、実績では作業現場での分別等の努力により、8.4%向上の61.2%で目標を達成した。



9) 資格取得の推進

環境経営目標に業務上で必要と認められる資格等について、3人の資格取得を目標とした。結果として3資格で計5人が取得し、目標を達成することができた。今後も資格取得を尚一層、推進します。

10) 建設現場における環境への配慮

環境経営目標には未設定ですが、常に環境に配慮した工事の実施に努め、今後も継続して取り組みます。

11) グリーン購入の推進

環境経営目標には未設定ですが、積極的な購入を今後も継続して取り組みます。

6. 3箇年度(2020～2022年度)の環境経営目標と実績

当社の事業活動における地球温暖化に影響を及ぼす項目（電気・車両燃料）と二酸化炭素排出量について、環境経営目標に対する3箇年度（2020年6月～2023年5月）の取組みの実績は、以下に記すとおりです。

電力に係る二酸化炭素排出係数は東北電力の2018年度調整後排出係数0.528kg-CO₂/kwhを使用。

項 目	単 位	基準値 (2017～2019年度 実績値平均)	△・▽：向上、削減 ▲・▼：増加、低下 (○：目標達成 ×：目標未達成)				
			2020年度	2021年度	2022年度		
			電力使用量の削減	kwh	44,397	46,933	49,775
	削減率		▲ 5.7% ×	▲ 12.1% ×	▲ 8.1% ×		
二酸化炭素排出量の削減	燃費向上	ガソリン車	km/ℓ	13.15	14.33	13.25	13.08
			向上率		△ 9.0% ○	△ 0.8% ○	▼ 0.5% ×
			走行距離 km	456,509	448,995	410,315	417,188
			燃料使用量 ℓ	34,724	31,335	30,959	31,892
		全 体	km/ℓ	(4.04)	4.27	4.00	4.00
			向上率		△ 5.6% ○	▼ 1.1% ×	▼ 1.0% ×
			走行距離 km	311,512	316,622	333,486	308,735
			燃料使用量 ℓ	77,029	74,182	83,447	77,092
		バキューム車	km/ℓ	5.62	5.79	5.71	5.77
			向上率		△ 3.1% ○	△ 1.6% ○	△ 2.7% ○
			走行距離 km	122,322	124,858	119,450	118,232
		強力吸引車	燃料使用量 ℓ	21,772	21,546	20,926	20,488
	km/ℓ		1.92	1.85	1.95	2.15	
	向上率			▼ 3.6% ×	△ 1.7% ○	△ 11.7% ○	
	走行距離 km	50,964	46,416	70,099	67,098		
		燃料使用量 ℓ	26,528	25,059	35,875	31,260	
		高压洗浄車	km/ℓ	3.55	3.66	3.73	2.94
	向上率			△ 3.1% ○	△ 5.0% ○	▼ 17.3% ×	
	走行距離 km		49,171	45,539	38,201	30,748	
	燃料使用量 ℓ	13,842	12,437	10,244	10,471		
他 作業車		km/ℓ	5.98	6.59	6.45	6.23	
		向上率		△ 10.2% ○	△ 7.8% ○	△ 4.1% ○	
	走行距離 km	89,055	99,809	105,736	92,657		
燃料使用量 ℓ	14,887	15,140	16,403	14,873			
	二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	306,285	292,618	315,276	301,282	
				▽ 4.5% ○	▲ 2.9% ×	▽ 1.6% ○	

1) 電力使用量の削減

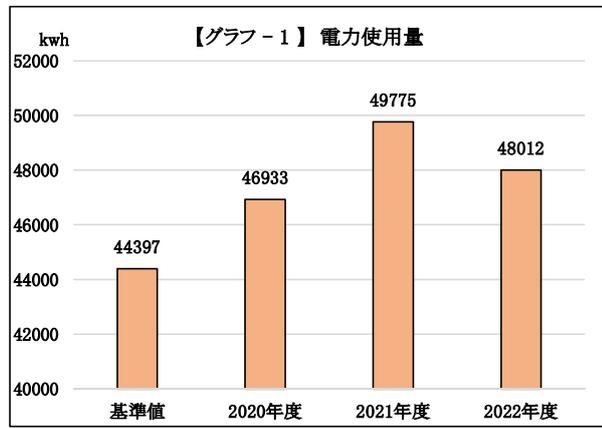
電力の使用量については、【グラフ-1】に示すとおり、基準実績値(過去3箇年平均)に比べ

【電力使用量】 【基準実績： 44,397 kwh】

- ・ 2020年度 5.7% 増加の 46,933 kwh
- ・ 2021年度 12.1% 増加の 49,775 kwh
- ・ 2022年度 8.1% 増加の 48,012 kwh

という結果でした。

3箇年の平均使用量でも 48,240 kwhで8.7%の増加となっています。



2) ガソリン車両の燃料消費量と燃費向上

ガソリン車両の燃料消費量と燃費向上については、【グラフ-2】に示すとおり、基準実績値(過去3箇年平均)に比べ

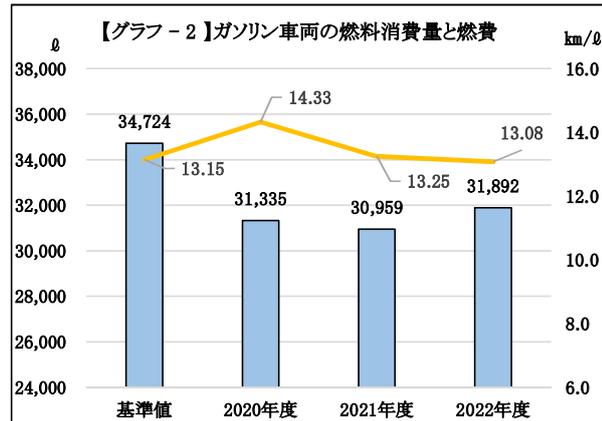
【燃料消費量】 【基準実績： 34,724 ℓ】

- ・ 2020年度 9.80% 削減の 31,335 ℓ
- ・ 2021年度 10.8% 削減の 30,959 ℓ
- ・ 2022年度 8.2% 削減の 31,892 ℓ

【燃費】 【基準実績： 13.15 km/ℓ】

- ・ 2020年度 9.0% 向上の 14.33 km/ℓ
- ・ 2021年度 0.8% 向上の 13.25 km/ℓ
- ・ 2022年度 0.5% 低下の 13.08 km/ℓ

という結果でした。



3) 軽油車両(全体)の燃料消費量と燃費向上

軽油車両の燃料消費量と燃費向上については、【グラフ-3】に示すとおり、基準実績値(過去3箇年平均)に比べ

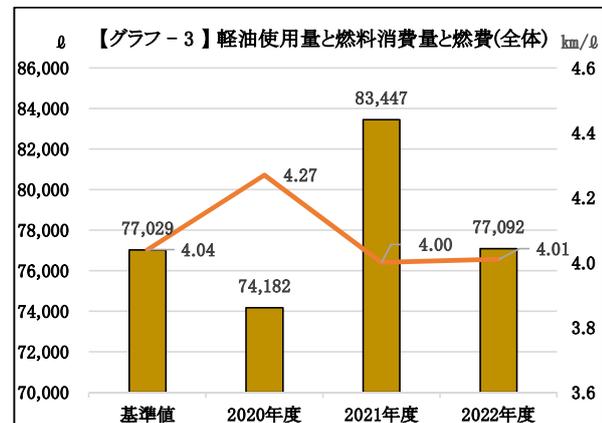
【燃料消費量】 【基準実績： 77,029 ℓ】

- ・ 2020年度 3.7% 削減の 74,182 ℓ
- ・ 2021年度 8.3% 増加の 83,447 ℓ
- ・ 2022年度 0.1% 増加の 77,092 ℓ

【燃費】 【基準実績： 4.04 km/ℓ】

- ・ 2020年度 5.6% 向上の 4.27 km/ℓ
- ・ 2021年度 1.1% 低下の 4.00 km/ℓ
- ・ 2022年度 1.0% 低下の 4.00 km/ℓ

という結果でした。



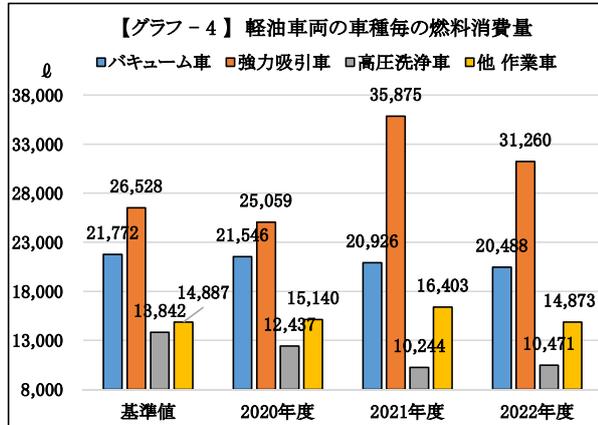
3)-2 軽油車両(車種毎)の燃料消費量と燃費向上

軽油車両の燃料消費量と燃費向上については、バキューム車、強力吸引車、高圧洗浄車、他 作業車の各車種毎の4種類に分類して目標を設定し、取組みました。

車種毎の燃料消費量と燃費向上については、以下のとおりです。

車種毎の燃料消費量については、【グラフ-4】に示すとおり、基準実績値(過去3箇年平均)に比べ

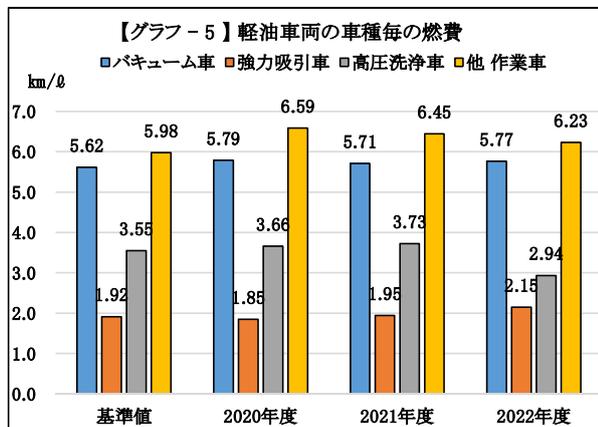
車種	【基準実績】	2020年度	2021年度	2022年度
【バキューム車】	【基準実績： 21,772 ℓ】	21,546 ℓ	20,926 ℓ	20,488 ℓ
・ 2020年度	1.0% 削減の			
・ 2021年度	3.9% 削減の			
・ 2022年度	5.9% 削減の			
【強力吸引車】	【基準実績： 26,528 ℓ】	25,059 ℓ	35,875 ℓ	31,260 ℓ
・ 2020年度	1.0% 削減の			
・ 2021年度	35.2% 増加の			
・ 2022年度	17.8% 増加の			
【高圧洗浄車】	【基準実績： 13,842 ℓ】	12,437 ℓ	10,244 ℓ	10,471 ℓ
・ 2020年度	10.2% 削減の			
・ 2021年度	26.0% 削減の			
・ 2022年度	24.4% 削減の			
【他 作業車】	【基準実績： 14,887 ℓ】	15,140 ℓ	16,403 ℓ	14,873 ℓ
・ 2020年度	1.7% 増加の			
・ 2021年度	10.2% 増加の			
・ 2022年度	0.1% 削減の			



という結果でした。

車種毎の燃費については、【グラフ-5】に示すとおり、基準実績値(過去3箇年平均)に比べ

車種	【基準実績】	2020年度	2021年度	2022年度
【バキューム車】	【基準実績： 5.62 km/ℓ】	5.79 km/ℓ	5.71 km/ℓ	5.77 km/ℓ
・ 2020年度	3.1% 向上の			
・ 2021年度	1.6% 向上の			
・ 2022年度	2.7% 向上の			
【強力吸引車】	【基準実績： 1.92 km/ℓ】	1.85 km/ℓ	1.95 km/ℓ	2.15 km/ℓ
・ 2020年度	3.6% 低下の			
・ 2021年度	1.7% 向上の			
・ 2022年度	11.7% 向上の			
【高圧洗浄車】	【基準実績： 3.55 km/ℓ】	3.66 km/ℓ	3.73 km/ℓ	2.94 km/ℓ
・ 2020年度	3.1% 向上の			
・ 2021年度	5.0% 向上の			
・ 2022年度	17.3% 低下の			
【他 作業車】	【基準実績： 5.98 km/ℓ】	6.59 km/ℓ	6.45 km/ℓ	6.23 km/ℓ
・ 2020年度	10.2% 向上の			
・ 2021年度	7.8% 向上の			
・ 2022年度	4.1% 向上の			



という結果でした。

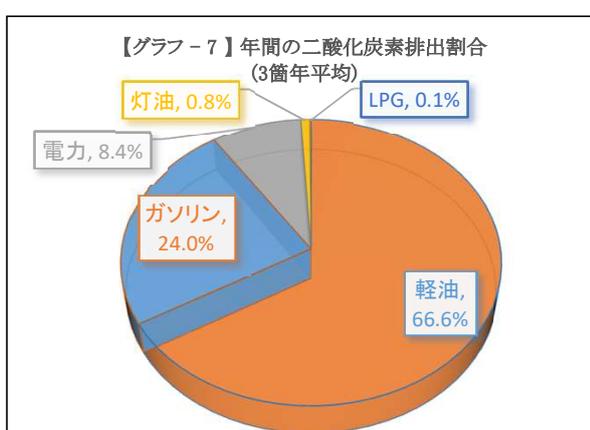
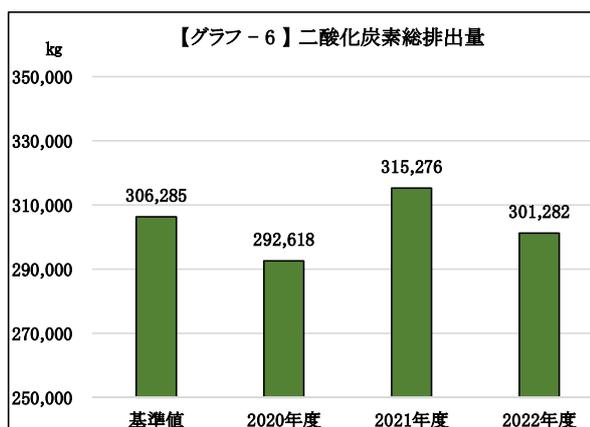
4) 項目毎の二酸化炭素排出量及び二酸化炭素総排出量

事業活動における地球温暖化に影響を及ぼす二酸化炭素排出量については、環境経営目標には設定していないが、二酸化炭素総排出量とその内訳(各項目毎の排出量)は以下のとおりです。

二酸化炭素総排出量を【グラフ-6】に、今回取組んだ3箇年での各項目毎の排出割合(平均)を【グラフ-7】に、各項目毎の二酸化炭素排出量(内訳)について【表-1】に示した。
二酸化炭素総排出量は【グラフ-6】に示すとおり、基準実績値(過去3箇年平均)と比較して増減を繰り返しながら、300,000 kg前後で推移している。

また、各項目毎の排出割合(3箇年平均)【グラフ-7】で示すとおり、作業用車両の燃料(ガソリン及び軽油)が二酸化炭素の総排出量の90%超を占めていることから、排出量の削減への近道は、車両燃料の削減である。

しかし、当社の事業活動における実状では車両燃料の消費は不可欠であり、現実的には厳しい状況でもある。
しかしながら、『僅かでも削減となるように』日々の努力を惜しまず、『その努力が実を結ぶように』今後も継続して取組みたい。



【表-1】各項目毎の二酸化炭素排出量(内訳)

(単位: kg)

二酸化炭素 排出由来項目	基準 実績値	2020年度		2021年度		2022年度		3箇年平均	
		排出量	増減	排出量	増減	排出量	増減	排出量	増減
電力	23,442	24,781	5.7% 増	26,281	12.1% 増	25,350	8.1% 増	25,470	8.7% 増
ガソリン	80,560	72,697	9.8% 減	71,826	10.8% 減	73,989	8.2% 減	72,837	9.6% 減
軽油	198,733	191,390	3.7% 減	215,294	8.3% 増	198,896	0.1% 増	201,859	1.6% 増
灯油	3,122	3,296	5.6% 増	1,454	53.4% 減	2,642	15.4% 減	2,464	21.1% 減
LPG	429	454	6.0% 増	421	1.8% 減	404	5.6% 減	426	0.6% 減
総排出量	306,285	292,618	4.5% 減	315,276	2.9% 増	301,282	1.6% 減	303,058	1.1% 減

6. 環境経営計画及びその取組結果とその評価

環境経営計画を下表に示しました。環境経営計画の実施状況を年4回、5段階評価により点検を行っており、その評価点の平均を下表に示しました。

評価点の低い活動項目については、更に活動の徹底に努めます。

【総務部門】

項目	環境経営目標	環境経営計画	点検結果	担当者コメント (2023.6)	環境管理事務局コメント (2023.6)
活動の管理		エコ安全ドライブの周知	5.0	安全運転管理者講習の資料を基に社内研修を実施し、エコ運転・安全運転について周知した。	エコ運転・安全運転への周知に努めて欲しい。
		運転記録簿の管理	4.0		
		安全運転教育の実施	5.0		
		安全運転管理者講習会の受講	5.0	7月13日受講	正・副安全管理者 4名受講
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減	空調設定温度 夏季/冬季 28℃以上/20℃以下	4.0	照明のこまめな消灯と不在時の空調停止を心掛けて実践したが、削減には至らなかった。	部署によっては書類の作成等が増え、事務所に不在となることが減少している。
		外出時などパソコンのモニター電源OFF	5.0		
		昼休み、残業時、外出時など不要照明のこまめな消灯	5.0		
		照明器具見直し(取り外し、人感型化、高効率化、LED化等)	5.0		
	灯油使用量の削減	灯油暖房温度設定20℃以下	5.0	必要最小限の使用に努め、こまめな温度管理を心掛けた。	無理の無い範囲での節約を心掛けてもらいたい。
ガス使用量の削減	ガス湯沸し器の使用節約	5.0	必要最小限の使用に努めた。		
水道使用量の削減		蛇口付近への節水シール貼付	5.0	常に無駄遣いをしないように心掛けたが、削減には至らなかった。	常に意識して取組んでいるが、結果として削減には至らなかった。
		手洗い水使用の無駄の排除	5.0		
		水漏れがないことを定期的に確認	5.0		
一般廃棄物(可燃物)の排出量の削減と再資源化の促進		両面コピーの徹底 (片面コピー済の裏面使用)	5.0	コピー済みの裏面の再使用(社内連絡用紙等)に活用した。	使用済みのコピー用紙を適時各部署より回収し、裏面の再使用を徹底していた。
		その他紙の分別再資源化の徹底	5.0	紙資源の分別に努めた。	
		分別による排出量の削減と再資源化に努める。(金属・古紙・ダンボール・ペットボトル)	5.0	再資源化のため、分別を徹底。	適正に行っていた。
グリーン購入の推進		グリーン商品の積極的な購入	5.0	購入を心掛けた。	文房具が主となるが、前向きに取り組んでいた。
平均			4.9		

【管理部門】

項目	環境経営目標	環境経営計画	点検結果	担当者コメント (2023.6)	環境管理事務局コメント (2023.6)
二酸化炭素排出量の削減	ガソリン車両及び軽油車両の燃費向上	エコ安全ドライブの実践			
		急発進・急加速を避ける。	5.0	エコ運転・安全運転を積極的に啓蒙したが、燃費向上に至らなかった。	積極的に取り組んでいたが、目標を達成できなかった。大きな事故は無いものの、自損事故が発生している。ゆとりを持った運転を心掛け、大きな事故に繋がらないように。
		ふんわりアクセルを心掛ける。	5.0		
		シフトアップは早めに。 シフトダウンは遅めにする。	5.0		
		一定速度の走行をする。	5.0		
		経済速度での走行をする。	5.0		
		不要なアイドリング運転の防止	4.8		
		過度な空調の使い方をしない。	5.0		
		日常整備			
		タイヤ圧を適正に保つ	5.0	各自で担当車両の始業前点検を実施した。	日々の点検によって不具合を早期に発見することで業務への支障・負担が軽減される。
		エンジンオイルの適正な管理	5.0		
		作業管理			
		車両の走行は最短経路を選択	5.0	現場に即した車両の選定をし、効率的な使用を心掛けた。	作業内容を理解することで現場に適した車両を使用した効率化を目指していた。
		運転記録簿の記帳	4.0		
水道使用量の削減	蛇口付近への節水シール貼付	5.0	上水道と地下水揚水ポンプ(地下水)を使い分けることによって、上水道の使用量の削減を推進した。	地下水揚水ポンプ(地下水)を活用することで確実に上水道の使用量を削減できた。	
	手洗い水使用の無駄の排除	5.0			
	洗車ホースへのストッパーの設置と使用	5.0			
	水漏れがないことを定期的に確認	5.0			
	積極的に地下水揚水ポンプ(地下水)を活用する。	5.0			
廃棄物(一般・産廃)の排出量の削減と再資源化の促進	分別し、排出量の削減と再資源化に努める。(金属・廃プラ・ダンボール・ペットボトル)	4.0	再資源化のため、分別を徹底。	適正に行っていた。	
化学物質の適正使用及び管理	購入のチェックと毎月末の棚卸	5.0	月毎に購入量と在庫をチェック。	適正に行っていた。	
建設現場における環境への配慮	省エネ運転、低騒音、低振動型建設機械の使用に努める。	5.0	省エネ運転に努め、環境配慮型機械の使用を徹底した。	適正に行っていた。	
	建設発生土の場内再利用、再生土の利用に努める。	5.0	発生土の再利用に努めた。	適正に行っていた。	
	廃棄物は分別し、排出量の削減と再資源化に努める。(金属・廃プラ・陶器・ガラス・ダンボール・木くず・紙くず・石膏ボード)	5.0	分別に努めた。	適正に行っていた。	
資格取得の推進	積極的な資格取得の推進	5.0	資格取得を積極的に啓蒙した。	努力が結果となっている。	
平均			4.9		

【環境整備部門】

項目	環境経営目標	環境経営計画	点検結果	担当者コメント (2023.6)	環境管理事務局コメント (2023.6)
二酸化炭素排出量の削減	軽油車両の燃費向上 (バキューム車等の燃費向上)	エコ安全ドライブの実践			
		急発進・急加速を避ける。	5.0	日々エコ運転を心掛けて作業に従事しているが、主に使用する車両の特性から燃費向上が厳しい状況になってきた。	燃費向上の目標達成が年々厳しい状況の車両もあるが、前向きに取り組んでいる。
		ふんわりアクセルを心掛ける。	5.0		
		シフトアップは早めに。 シフトダウンは遅めにする。	5.0		
		一定速度の走行をする。	5.0		
		経済速度での走行をする。	5.0		
		不要なアイドリング運転の防止	4.5		
		過度な空調の使い方をしない。	5.0		
		日常整備			
		タイヤ圧を適正に保つ	5.0	各自、始業前点検を継続して行った。	車両故障が業務の支障となるので未然防止に努めて欲しい。
		エンジンオイルの適正な管理	5.0		
		ブレーキエアタンクの水抜きを怠らない。	5.0		
		作業管理			
		車両の走行は最短経路を選択	5.0	作業場所・作業内容・人員の配置を従事者に事前の周知徹底を励行した。	現場作業の従事者が余裕を持って準備を出来る早めの段取りを実践していた。
運転記録簿の記帳	4.8				
水道使用量の削減	蛇口付近への節水シール貼付	5.0	地下水揚水ポンプ(地下水)を使用することによって、上水道の使用量の削減を推進した。	地下水揚水ポンプ(地下水)を活用することで確実に上水道の使用量を削減できた。	
	手洗い水使用の無駄の排除	5.0			
	洗車ホースへのストッパーの設置と使用	5.0			
	水漏れがないことを定期的に確認	5.0			
	積極的に地下水揚水ポンプ(地下水)を活用する。	5.0			
受託産業廃棄物 (有機汚泥)の再資源化の促進	排出事業者に対して処理委託先について、再資源化を行う業者を推奨することに努める。	4.8	中間処理業者へ再資源化への働きかけを継続。	中間処理業者に再資源化についての働きかけを継続している。	
廃棄物の排出量の削減と再資源化の促進	分別による排出量の削減と再資源化に努める。(金属・廃プラ・ダンボール・木くず)	4.8	再資源化のため、分別を徹底。	適正に行っていた。	
資格取得の推進	積極的な資格取得の推進	4.3	資格取得を積極的に推進した。	チャレンジ精神で取り組んで欲しい。	
平均			4.9		

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規の遵守状況を自ら点検した結果、下表のとおり全て遵守していることを確認しました。
 なお、法令違反等について行政当局からの指摘もなく、また、住民等からの苦情や訴訟も皆無です。

環境法規	主な責務又は遵守事項	適合状況
家電リサイクル法	再商品化する者に適切に引渡し、料金の支払に応じる。	適合
小型家電リサイクル法	分別して排出し、認定業者等確実に運搬・再資源化できる者に引き渡す。	適合
建設業法	営業所を管轄する知事に許可申請を行う。	適合
建設リサイクル法	建設資材廃棄物の再資源化により得られた建設資材を使用するよう努める。	適合
自動車リサイクル法	自動車の所有者は、使用済み自動車を引取業者に引き渡す。 使用済自動車のリサイクルに要する費用を負担する。	適合
水質汚濁防止法	水質事故時は、応急措置を実施し事故の状況及び講じた措置の概要を知事に届け出る。	適合
浄化槽法	設置または構造等の変更をしようとするときは届出る。 保守点検、清掃の技術上の基準に従って行う。 年1回以上水質に関する検査を受ける。(法第11条検査) 業を行う区域の知事(政令市長)に届出る。(浄化槽保守点検業) 業を行う区域の市町村長の許可を受ける。(浄化槽清掃業)	適合
航空法	無人航空機の登録するとともに登録番号を表示する。 飛行禁止空域は、国土交通大臣の許可を受ける。 飛行の方法は所轄する空港事務所または地方航空局に申請する。 無人航空機飛行マニュアルを遵守する。	適合
農薬取締法	農薬の使用基準を遵守する。 安全かつ適正な使用に関する知識と理解を深めるように努める。 無人航空機による農薬の空中散布に係る安全ガイドラインの遵守	適合
毒物及び劇物取締法	容器に「医薬用外毒物・劇物」の表示 飛散、漏えいしない専用の設備で、鍵のかかる場所に保管する。 営業所を管轄する保健所に登録する。(毒物劇物一般販売業)	適合
PRTR法	指定化学物質等の性状及び取扱いに関する情報(安全データシート)の提供(受領)。	適合
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	1) 収集運搬または処理の委託 産業廃棄物の収集運搬または処理については許可業者に委託。 委託契約書の取り交し、委託契約書は5年間保存する。 管理票は産業廃棄物の種類ごとに交付する。 管理票の保存期間(排出事業者)A票、B2票、D票、E票 :5年保存する。 交付後90日以内に収運・中間処分の回付がない又は180日以内に最終処分終了の管理票送付がないときは報告する。 前年の管理票交付等状況を6月末までに報告する。 虚偽の記載をして管理票を交付しない。	適合
	2) 収集運搬業の許可 知事の許可を受ける 水銀使用製品産業廃棄物の収集運搬を含む。	適合
	3) 収集運搬の受託 委託契約書の取り交し、委託契約書は5年間保存する。 管理票は、産業廃棄物の種類ごとに交付を受ける。 管理票の保存期間(収集運搬業者)B1票、C2票 :5年保存する。 運搬後180日以内に最終処分終了の管理票送付がないときは報告する。 前年の収集運搬実績を6月末までに報告する。(山形県)	適合

環境法規	主な責務又は遵守事項	適合状況
労働安全衛生法	業務に起因する危険性又は有毒性等を調査し、危険又は健康障害を防止するための措置を講ずるよう努める。	適合
	化学物質の取扱いと現場作業に伴うリスクアセスメントの実施	
	雇入れ時に従事する業務に関する安全または衛生の教育を行う。	
	健康診断の実施	
騒音規制法	特定建設作業の届出(指定地域内)	適合
	騒音規制基準の遵守(指定地域内)	
振動規制法	特定建設作業の届出(指定地域内)	適合
	振動規制基準の遵守(指定地域内)	
大気汚染防止法	解体工事の元請業者は、特定工事に該当するかを調査し、その結果を発注者に説明すること。	適合
石綿障害予防規則	事業者は、建築物の解体等の作業を行うときは、石綿等の使用の有無を調査しなければならない。	適合
フロン排出抑制法	第1種特定製品の定期点検・記録(7.5kw未満につき簡易点検)を実施する。	適合
	第1種特定製品の廃棄時の引取り証明書の交付 (廃棄物処理業者への引渡し時)	
オフロード法	特定特殊自動車は基準適合の表示等がなければ使用してはならない。	適合
新潟県(市)浄化槽保守点検業者の登録に関する条例	知事(政令市長)の登録を受ける	適合
	浄化槽管理士は登録有効期間内に1回、研修を受講する。	
	営業所ごとに条例で定める標識を掲示する。	
	営業所ごとに条例で定める帳簿を備え保存する。	
建築物における衛生的環境の確保に関する法律	知事の登録を受ける	適合
	清掃作業の基準に従って行う。	
	前年の実績を6月末までに報告する。	
新潟県産業廃棄物の適正な処理の促進に関する条例	産廃処分委託業者の施設稼働状況の確認・記録する。	適合
	不適正処分時の搬入停止・報告等をする。	
新潟県生活環境の保全等に関する条例	特定施設の設置届(指定地域内)、特定建設作業の騒音規制基準の遵守。	適合
新発田地域広域事務組合火災予防条例	指定数量未満の危険物の貯蔵及び取扱いの技術上の基準の遵守	適合
	貯蔵場所では、危険物が漏れ、あふれ、飛散しないよう措置をし、整理・清掃し、不要物を置かない。	

8. 代表者による全体評価と見直しの結果

2022年度の環境経営の取り組みについて、代表者による全体の評価及びこれを踏まえた見直しに係る指示事項は以下のとおりです。

	点検項目	改定の必要性	指示の内容
見直しに係る指示事項	環境経営方針	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	現行の環境経営方針を維持し、取り組むこと。
	環境経営目標	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	① 現行の取組みを維持し、2022年度を基準として2023年度から2025年度の3箇年について、新たに環境経営目標を設定して取り組むこと。 ② 建設現場については環境経営目標を設定しないが、環境に配慮した工事の施工に努めること。 ③ グリーン購入について、環境経営目標は設定しないが、今後も継続して購入に努めること。
	環境経営計画	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	現行の環境経営計画を維持し、取り組むこと。
	環境経営システム	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	環境経営システムマニュアル(改訂)の運用に努めること。
	環境経営実施体制	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	現行の実施体制を維持し、更に全員参加を進めること。
	代表者コメント	<p>全体の評価</p> <p>①電力使用量の削減 ②ガソリン車両の燃費向上 ③軽油車両(高圧洗浄車)の燃費向上 ④水道使用量(事務所)の削減の4項目について、目標を達成することができなかった。 ①電力使用量の削減と④水道使用量(事務所)の削減については、現状では対応が厳しい状況である。 計画していた新たな業務の展開や業務体系の変化なども含め、厳しい点多々あるかと思われるが、今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。 また、地下水揚水ポンプの積極的な使用、車両の燃費向上に関連する作業現場や作業条件等の事前の把握など目標達成に向けた努力を評価したい。</p> <p>指示事項</p> <p>① 現行の取組みを維持し、2022年度を基準として2023年度から2025年度の3箇年について、新たに環境経営目標を設定して取り組むこと。増加が見込まれる環境経営目標項目は、現状実績の維持を目標とする等、現実的な目標を設定すること。 ② 建設現場については、環境経営目標は設定しないが、環境に配慮した工事の施工に努めること。 ③ グリーン購入について、環境経営目標は設定しないが、積極的に購入に努めること。</p>	

9. 次年度の環境経営目標

次年度(2023年度)以降の環境経営目標は、下表のとおりです。

電力に係わる二酸化炭素排出係数は東北電力の2021年度調整後排出係数0.528kg-CO₂/kwhを使用

項 目		単 位	基準実績値 (2022年度)	目 標 値 (△ 向上・▽ 削減)			
				2023年度	2024年度	2025年度	
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減	kwh	48,012	48,012	48,012	48,012	
		削減率		▽ 0.0%	▽ 0.0%	▽ 0.0%	
	燃費改善	ガソリン車	km/ℓ	13.08	13.15	13.15	13.15
			向上率		△ 0.5%	△ 0.5%	△ 0.5%
		全 体	km/ℓ	(4.01)	(4.03)	(4.03)	(4.03)
			向上率				
		バキューム車	km/ℓ	5.77	5.80	5.80	5.80
			向上率		△ 0.5%	△ 0.5%	△ 0.5%
		強力吸引車	km/ℓ	2.15	2.16	2.16	2.16
			向上率		△ 0.5%	△ 0.5%	△ 0.5%
		高压洗浄車	km/ℓ	2.94	2.95	2.95	2.95
			向上率		△ 0.5%	△ 0.5%	△ 0.5%
		他 作業車	km/ℓ	6.23	6.26	6.26	6.26
向上率			△ 0.5%		△ 0.5%	△ 0.5%	
二酸化炭素総排出量		kg-CO ₂	301,282	-	-	-	
水道使用量の削減	全 体	m ³	(560.3)	(560.3)	(560.3)	(560.3)	
		削減率					
	事 務 所	m ³	258.3	258.3	258.3	258.3	
		削減率		▽ 0.0%	▽ 0.0%	▽ 0.0%	
	作 業 用	m ³	302.0	302.0	302.0	302.0	
		削減率		▽ 0.0%	▽ 0.0%	▽ 0.0%	
受託産業廃棄物(有機汚泥)の再資源化の促進		再資源化率 %	61.2	61.7	62.2	62.7	
自社排出産業廃棄物の再資源化の促進		再資源化率 %	61.2	61.7	62.2	62.7	
一般廃棄物(可燃物)の排出量の削減		kg 削減率	1,483	1,483	1,483	1,483	
資格取得の推進		取得者数 人	5	3	3	3	

- 注) 1. 化学物質は自らの判断で削減できないため、目標設定はせず、適正使用及び管理に努める。
 2. 年度とは当社の会計年度(6月～翌年5月)である。
 3. 二酸化炭素総排出量は灯油・LPGを含む。
 4. 建設廃棄物とその他の産業廃棄物を区分して管理することは困難なため、自社排出産業廃棄物として再資源化に取り組む。
 5. 建設現場については目標設定せず、環境に配慮した工事の施工に努める。
 6. グリーン購入については目標設定せず、今後も継続して購入に務める。
 7. 基準実績値とは、2022年度(6月～翌年5月)である。

10. 次年度の環境経営計画

次年度の環境経営計画は、本年度の同計画を継続して実施します。

また、これに加え代表者による全体の評価と見直しの結果、以下の3点について指示がありました。

その実現に向け、計画に基づいて活動を進めます。

- ① 現行の取組みを維持し、2022年度を基準として2023年度から2025年度の3箇年について、新たに環境経営目標を設定して取り組むこと。
- ② 建設現場については、環境経営目標は設定しないが、環境に配慮した工事の施工に努めること。
- ③ グリーン購入について、環境経営目標は設定しないが、積極的に購入に努めること。

部門名：総務部門

項目	環境経営目標	環境経営計画	時 期	責任者
活動の管理		エコ安全ドライブの周知	8月	本間
		運転記録簿の管理	通年	
		安全運転教育の実施	8月	
		安全運転管理者講習会の受講	7月	
二酸化炭素の削減	電力使用量の削減	空調設定温度:夏季/冬季 28℃以上/20℃以下	冷暖房時期	居城(麻)
		昼休み、残業時、外出時など不要照明のこまめな消灯	通年	
		外出時などパソコンのモニター電源OFF	通年	
		照明器具見直し (取り外し、人感型化、高効率化、LED化など)	通年	
	灯油使用量の削減	暖房温度設定20℃以下	暖房時期	曾根
	LPガス使用量の削減	湯沸し器の使用節約	通年	
水道使用量の削減		蛇口への節水シールの貼付	通年	斎藤(裕)
		手洗い水使用の無駄の排除	通年	
		水漏れがないことを定期的に確認する。	通年	
一般廃棄物(可燃物)の排出量の削減と再資源化の促進		両面コピーの徹底(片面コピー済の裏面使用)	通年	宮部
		その他紙の分別再資源化の徹底	通年	
		分別による排出量の削減と再資源化に努める。 (金属・古紙・ダンボール・ペットボトル)	通年	
グリーン購入の推進		グリーン商品の積極的な購入	通年	中野(夏)

部門名： 管理部門

項目	環境経営目標	環境経営計画	時 期	責任者
二酸化炭素の削減	エコ安全ドライブの実践 ガソリン使用車両 の燃費改善 軽油使用車両 の燃費改善	エコ安全ドライブの実践		吉川
		急発進、急加速を避ける。	通年	
		ふんわりアクセルを心掛ける。	通年	
		シフトアップは早めに。シフトダウンは遅めにする。	通年	
		一定速度の走行をする。	通年	
		経済速度での走行をする。	通年	
		不要なアイドリング運転を防止する。	通年	
		過度な空調の使い方をしない。	通年	
		日常整備		
	タイヤ圧を適正に保つ	通年		
	エンジンオイルは適正に管理する。	通年		
	作業管理		阿部	
	営業車・作業用車両の走行は最短経路を選択	通年		
	運転記録簿の記帳	通年		
水道使用量の削減	蛇口への節水シールの貼付	通年	長谷川	
	手洗い水使用の無駄の排除	通年		
	洗車ホースへのストッパーの設置と使用	通年		
	水漏れがないことを定期的を確認する。	通年		
	積極的に地下水揚水ポンプ(地下水)を活用する。	通年		
廃棄物(一般・産廃)の排出量の削減と再資源化の促進	分別による排出量の削減と再資源化に努める。 (金属・廃プラ・ダンボール・ペットボトル)	通年	藤井	
化学物質の適正使用及び管理	購入量のチェックと毎月末の棚卸	通年	仲村	
無人航空機による農薬散布業務における環境への配慮	計画的な散布と農薬の適正使用により、土壌や水質の保全に努める	散布時期	大滝	
建設現場における環境への配慮	省エネ運転、低騒音、低振動型建設機械の使用に努める。	通年	佐藤	
	建設発生土の場内再利用、再生土の利用に努める。	通年	大倉	
	廃棄物は分別し、廃棄物の排出量の削減と再資源化に努める。(金属・廃プラ・陶器・ガラス・ダンボール・木くず・紙くず・石膏ボード)	通年	倉光	
資格取得の推進	積極的な資格取得の推進に努める。	通年	大沼	

部門名：環境整備部門

項目	環境経営目標	環境経営計画	時 期	責任者
二酸化炭素の削減	エコ安全ドライブの実践 ガソリン使用車両 の燃費改善 軽油使用車両 の燃費改善	エコ安全ドライブの実践		中野 (太)
		急発進、急加速を避ける。	通年	
		ふんわりアクセルを心掛ける。	通年	
		シフトアップは早めに。シフトダウンは遅めにする。	通年	
		一定速度の走行をする。	通年	
		経済速度での走行をする。	通年	
		不要なアイドリング運転を防止する。	通年	
		過度な空調の使い方をしない。	通年	
		日常整備		
	タイヤ圧を適正に保つ	通年		
	エンジンオイルは適正に管理する。	通年		
	ブレーキエアタンクの水抜きを怠らない。	通年		
	作業管理		大江 (亮)	
	営業車・作業用車両の走行は最短経路を選択	通年		
運転記録簿の記帳	通年			
水道使用量の削減	蛇口への節水シールの貼付	通年	藤間	
	手洗い水使用の無駄の排除	通年		
	洗車ホースへのストッパーの設置と使用	通年		
	水漏れがないことを定期的を確認する。	通年		
	積極的に地下水揚水ポンプ(地下水)を活用する。	通年		
受託産業廃棄物(有機汚泥)の再資源化の促進	排出事業者に対して処理委託先について、再資源化を行う業者を推奨することに努める。	通年	渡部	
廃棄物の排出量の削減と再資源化の促進	分別による排出量の削減と排出量の削減と再資源化に努める。(金属・廃プラ・ダンボール・木くず)	通年	小池	
資格取得の推進	積極的な資格取得の推進に努める。	通年	諏訪	